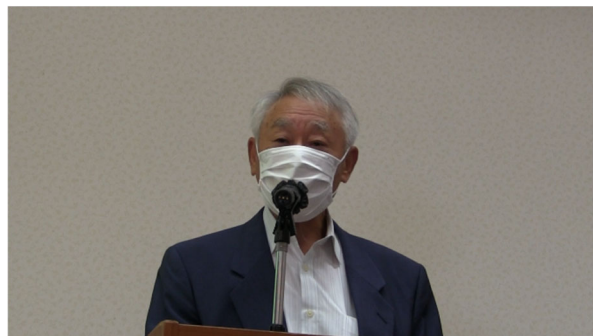


## 田面木地区防犯協会（青森県）

皆さん、こんにちは。八戸市の田面木地区、防犯協会会長の田中と申します。よろしくお願い申し上げます。私は平成 17 年に田面木地区防犯協会に入りまして、これまで子供たちの見守り活動を中心に約 16 年間、毎日のように続けてまいりました。



「私達1人ひとは微力だが、無力ではない」

たものき  
田面木地区防犯協会  
(青森県)

### 活動地域

○ 青森県八戸市田面木地区  
～人口5,392人（令和3年4月末現在）



田面木地区防犯協会では、『私達 1 人ひとは微力だが、無力ではない』というテーマを持って活動しております。これは、たとえ少ない人数であっても、毎月、地道に活動することによって、必ず地域のためになるという意味を込めてのテーマでございます。

それでは、八戸市について、少し PR させていただきます。私が活動している青森県八戸市は太平洋側にありまして、人口約 22 万の中核都市であります。八戸市では日本一の山車祭り、ユネスコ遺産の三社大祭があり、B 級グルメのせんべい汁、また国の重要無形民俗文化財、えんぶりこれは 2 月開催の豊作祈願のお祭りがございます。そして、世界文化遺産の堀川縄文遺跡、そこから発掘されました合掌土偶、21 年に国の記念に指定されております。私たちはこのような所の八戸市の西部のほうに、西のほうからちょっと離れたほうにございますが、位置する田面木、この田面木という字はなかなか読めません。他の町へ行って言うと、タメンキって言います。タモノキでございます。田面木地区では国道が通っており、また高速道路の入り口でございます。大変、交通量の激しい所でございます。小学校の他に私立の高等学校、国立の高等専門学校、そして八戸赤十字病院、大きな病院があります。毎日、人の往来の激しい所でございます。また、少し奥のほうへ入ると、雑木林や畑がいっぱいあって、時々、熊が出てきます。その熊が出たときが、私たちの活動の正念場でございます。

### 団体概要

○ 昭和 24 年 9 月設立

○ 会員数 20 人  
(令和 4 年 5 月末現在)



田面木地区防犯協会は昭和 24 年に設立されまして、活動年数が 70 年という長い歴史を持っております。会員数は 20 名でございますが、6 町内会ございまして、6 町内会の協力をいただき、地域の巡回に参加していただいております。また、八戸地区交通安全協会田面木支部と共同して、活動しております。交通部門、防犯部門の垣根を越えて、見守り活

動を行っております。それでは、早速、私たち田面木地区防犯協会の活動についてご説明申し上げたいと思います。

### 住民の要望に沿った防犯パトロール



- 毎月3回夜間パトロール (午後7時～)
- 毎月2回日中パトロール (午後2時30分～)

窃盗事件や野焼きパトロール実施中!!  
地域の安全は地域で守ります!!!!

### 通学路の見守り活動



- 毎朝午前7時30分～

小学校の児童に依頼して、交通安全の看板をデザインしてもらいました!!

私たちは毎月3回、午後7時、夜でございます、1時間半ぐらい、地域の夜間パトロール。防犯女性部は毎月2回、午後2時30分、これは子供たちが学校から帰る時間に合わせての道中のパトロールをやっております。パトロールの場所や目的、これについては、学校や交番と連携し、その時々が発生した事件の警戒、そして住民の要望に沿って、行っております。最近では、畑などで野焼きをする人、それについて地域のパトロール、また窃盗事件などが発生しておりますので、パトロールを強化しております。

私たちの最大の目玉でございますが、通学路の見守り活動でございます。交通指導隊とかいろんな方々とも協力しながら、毎朝7時から約1時間、田面木交差点、また横断歩道のある所、学校の近くなどに見守り活動を行っております。ただし、7時からといいますが、私たちが集まってくるのは6時ちょっと過ぎからでして、子供たちが気持ちよく学校へ通ってもらうために、毎日通学路のごみ拾いを行います。そして、小学校にお願いいたしまして、子供たちに看板を作るとき、デザインしていただきました。すごく格好のいい絵を描いていただきまして、これが地域の方々の評判を呼びまして、大変喜ばれております。この看板は、学校の近くに設置してあります。今年6月、学校へ来る途中、女の子が不審者に体に触られるという事件が発生し、交番とともに毎日のようにその通学路のパトロールをやりました。その後、新聞でも見ましたけども、学校の帰り、子供たちを誘拐するという情報が入ってきまして、これには防犯協会、安全協会、学校の見守りをやりました。去年も学校に教育施設に爆弾を仕掛けるという情報が入りましたので、私たちは学校の周辺をパトロールいたしました。

### 通学路の清掃活動



- 毎月5日・20日

ながら見守り始めました♪

### 特殊詐欺被害防止活動



- 毎月15日

独自のポケットティッシュ作成!

電話の相手は二セ者です!!  
たまされるな! その感情

警察官や金融機関職員  
等がキャッシュカードの  
暗証番号を盗み取り、カ  
ードを勝手に使うことは  
ありません!!

八戸警察署 田面木地区防犯協会

通学路の清掃活動でございます。これは、田面木地区に大きな地下道がございます、先ほど申し上げました、私立の学校、国立の高等専門学校などもありまして、この地下道も大変、今、利用しております。しかし、以前は全くこの地下道、誰も掃除もしない、酔っぱらいが時々寝ているというように治安が悪い状況でございました。そこで、防犯協会では毎月2回、5日と20日、地下道の掃除をやっております。そして、地下道の中には大きな掲示板6枚あります。この6枚のうち3枚は防犯協会が防犯ポスター、交通安全ポスターを張っております。あとの3カ所は小学校の子供たちが描いた絵を張っており



ます。そうすると、地下道の利用がすごく増えてきました。大変嬉しく思っております。ただし、この掲示板、とても古い、たまたま先月、八戸市長が田面木公民館に来てくれましたので、掲示板もお願いしました。3日前に完成して、きれいになりました。ありがたいと思っております。


特殊詐欺被害防止活動でございます。これについては、私の地域でも振り込め詐欺に遭った方が何名かございます。八戸市内でも還付金詐欺などの被害が発生しております。そこで、八戸地区連合防犯協会では毎月15日を振り込め詐欺被害の発生0の日と定めております。そこで、私たちも田面木地区地域にありますATMの前に、毎月15日パトロールしました。コンビニ、スーパーなどにもあります。日赤病院の中にもあります。そこでパトロールして、特に高齢者の方がATMに行くときは、注意しております。以前に、やっぱり高齢の女性の方が来ましたので、どうしたんですかと聞いたら、それはあなたは、だまされているんだよって被害を未然に防ぐことができました。その高齢の方は毎日、私たちを見ると、ありがとうございましたと言ってくれます。

### 空き家・一人暮らし世帯の巡回

○ 毎月2回

★困りごと相談の一例★

「コロナワクチン打ちたいんだけど、手続きの仕方が分からないんだよなあ。」



### 高齢者講習会の実施

○ 2ヶ月に1回開催

運転免許自主返納制度とは？



そして、田面木地区には、先ほど申し上げました、高齢化が30%を超えております。そして、空き家がたくさんあります。その空き家を私たちが巡回パトロールしております、特に1人暮らしの高齢者の方の所に回っております。地域の交流の場、例えば公民館などに来れないお年寄りの所に私たちはいろいろな情報を持っていき、反射材の利用、そしてごみ出しができていない、そういう高齢者も1人暮らしは結構おりました。その方々に私たちが、お手伝いしております。足腰が悪い、目が悪いとなかなか外へ出れないお年寄りがございます。その方々のために、私たちが月に2回パトロールして寄っていきますと、こないだもコロナのワクチンのやってもらう方法が分からないということで、私たちがその手続きをやってまいりました。高齢者の方々は、元気な人だといいいんですが、外へ出れない方々は誰とも会話をしない。私の地域にも1人暮らしの方が亡くなっていて、誰も気が付かないでいる、そういうこともありました。そういう方々に、私たちは、防犯女性部と一緒に、パトロールしております。大変喜ばれております。

それで、高齢者の講習会でございます。これは、不定期でございますが、おおむね2カ月か3カ月に1回は開催しております。公民館や集会所などで、行っております。交通事故の防止、振り込め詐欺の被害防止、いろいろなことを公民館などで集まってもらって、やっております。20人から30人来ました。40人来ました。交番の所長さん、安全協会の方々にも来てもらって、お話ししてもらっております。田面木地区防犯協会では、独自にティッシュペーパーなどを作って、高齢者に渡しておりますが、反射材、それから私も振り込め詐欺の被害防止のためのタオルなどを作りました。そして、高齢者の説明では信号の渡り方、横断歩道の渡り方、そして八戸市は青森県の中で飲酒運転がワースト1位、28年間。これはすごい。私の地域にも酔っぱらい運転で捕まっている方がよくおります。その方々に対して、飲酒運転は犯罪であると、万引も多いと、それらを高齢者を集めてお話をしております。

## 学校行事への協力・参加



○ 入学式・卒業式・運動会など



安全マップ作りへの協力!

## 災害等発生時の注意喚起・巡回



○ 川の氾濫  
○ 熊の目撃情報

保護者の協力も得て、  
通学・下校の際に  
子ども達に  
同行しました!



学校への行事参加でございます。これは私たちが最大の目標、テーマとしております。私たちはいつも黄色いジャンパーを着て活動しておりますので、子供たちからは黄色いおじさん、黄色いおばさんと呼ばれております。入学式や卒業式、その他運動会、それから地域演奏会など、学校で行事があるときは私たちが全て協力します。そして、小学校5年生による田面木地区安全探検隊と名乗って、田面木地区、地域を歩いて、どこが危険か、どんな安全対策をしているか、子供たちの目で見る活動をしております。そのときは子供・女性 110 番の家、防犯連絡所など、その役割も子供たちが直に訪ねて聞いて、その発表会などもやっております。

そして、田面木地区には大きな川がございます。平坦ではありません。山と崖が多い所です。それで災害が発生したときの注意喚起をやっております。この写真は先ほど申し上げました、聖ウルスラ学院高等学校の近くの駐車場に熊が出た、高専学校もあります、小学校もあります、住宅地です。その熊が出たとき、子供たちと保護者と先生、市役所の方々、登下校中の見守りやりました。そして、先ほど申し上げました大きな川、台風や大雨のときは、その川のそばに高齢者の方々が多く住んでおります。早めの避難準備などを呼び掛けております。今年も7月の4日に八戸市では大雨が降りました。もうその川が氾濫する寸前まできました。高齢者の方々には足腰が悪いと言ってなかなか動けないの方々、その方々を私たちは車に乗せて、避難所までという活動もしております。

## 課題

### 後継者の確保

現状～60歳以下の若年層は  
共働き夫婦や夜遅く  
まで働く人が多い

## 課題解決に向けた取組み

- 地道かつ効果的な活動
- 地域住民との交流

高齢でも地域のために  
貢献できます!!

とPR活動

しかし、田面木地区防犯協会も例外ではございません。高齢化が進んで、後継者が全く今のところはないという状態です。私も 78 歳になりました。若い方々は働きに出ている、またお年寄りの看護とかいろんなことで防犯活動になかなか出てこれられないという方がございます。そして、今、私たちは職場の定年は 60 でしたが、今は 65、70 まで働いているので、なかなか防犯活動に協力してくれる人がおりません。また、私たちと一緒に防犯活動をやってくれている方々でも、体が悪くなった、目が悪くなった、なかなかボランティア活動に出てこれなくなっている方も多くなってきております。もう同じメンバーで活動することはないなと思っておりました。

そこで、後継者をどうしたら探せるのか、でも私たちは無理に会員を増やすことはありません。無理に活動させません。活動のできる人をお願いして、住民と交流をし、これから地域の安全安心のために活動を協力してくれる人をお願いしております。活動の中では、防犯協会がどんな活動をしているかと



いうことに興味を持ってもらうために、地元の広報誌、これは交番便りとか、公民館便り、学校で出している新聞などに、私たち防犯協会でこういう活動をしておりますよと、ご紹介してもらっております。この公民館便りなどを見て、1人でも防犯協会に協力したいという方が出てくればなと思っておりました。つい4日前でございます。1人、出てきてくれました。ある新聞社の方です。大変嬉しく思い、早速、黄色いジャンパーなどを配布しました。私たちは毎日あの交差点や、あの学校のそば、高専のそばに立っておりますけれども、みんな挨拶をしてくれます。本当に挨拶、特に高校生、頑張ってください、ありがとうございます、と、その一言が私たちを勇気付けてくれます。ありがたいなと思っております。そこで、私は毎日、田面木の交差点に立っております。そこで赤信号、約30秒間の子供たちの会話でございます。おはよう、気を付けて行ってらっしゃい、この間の30秒間、本当に大切にしております。パワーポイントをご覧ください。

### 毎朝30秒の出会い

私達、防犯協会・交通安全協会のボランティアは、毎朝そして学校行事に子ども達と接している朝、おはよう！今日は暑いねと言うたわいのない会話を毎日子どもと交わしているそのようなことが毎日続くそうすると、日に日に親密になり赤信号の間に会話が弾み、だんだんと子ども達が可愛くなり、毎朝通学路に立つことが楽しみになってくる寒くても暑くても、雨の日も、朝になると気持ち早く交差点にと...私達は、子どもが事件事故に遭わないよう、細心の気を配っている

### 毎朝30秒の出会い

そしてある日黄色いおじさんが一人、また一人交差点のいつもの場所から消えた子ども達は、「おじさんはどうしたの、なぜここにいなの?」「とても淋しい」「いつも朝会うのが楽しみなのに」と言うそして、私に「いつもの黄色いおじさん呼んで来て。」と言う私は、その言葉に涙が出てきたいつもの子ども・いつもの黄色いおじさんそれが田面木小学校の子ども達の通る道の普通の風景である

このように、私たちはいつも子供との会話、交流を欠かせません。毎朝、交差点に立つことが、楽しくなりました。子供たちと冗談を言いながら、今日は学校で何があるかな、そういう会話をしました。今、子供たちに何が起きているか、お父さん、お母さん、離婚した、名字が変わったという子が出てきました。私たちにはそれを一切触れません。おはようって来る子供たちはとてもかわいく、いとおしく思っています。朝、交差点に立つのが楽しみになってきていました。子供たちの笑顔を見ると、本当に、ああ、よかったなと思えるようになり、子供たちから私たちのほうが、逆に活力をもらいました。交差点での見守り活動が終わって、うちに帰って、1杯のお茶がとてもおいしく感じられます。これが田面木地区防犯協会の日常の生活です。



ご静聴ありがとうございました

これからも田面木地区防犯協会では、私たちは高齢者だけど、微力だけど、無力ではないんだということをもっと地域住民の声を聞き、子供たちと交流して、その土に根付いて、根付いた団体として、安全安心な活動を毎日続けていきたいと思っております。子供たちが私たちのうちに時々訪ねてきます。どうしたんだと聞くと、お父さんが出張から帰って来て、お土産を持ってきてくれたことがありま

した。本当に嬉しく思いました。学校へも私たち、時々、顔を出しました。そうすると、子供たちが、私が校長先生とお話ししていると入ってきて、黄色いおじさんよく来てくれた、そう言ってくれます。とても嬉しく思って、まだ78、まだ少し頑張れるんだなと思っております。78と、私の防犯協会では若いほうです。八十何歳というのも、ざらにあります。もう少し頑張りたいなと思っております。大変、下手な説明で申し訳ありません。ご清聴ありがとうございました。

## 講評

**荒井** ありがとうございます。ご説明ありがとうございます。とてもよく分かりました。お話を伺っていて、一番印象に残ったのは、とても多様な活動をされていて、すごく充実しているなというのが率直な感想です。防犯ボランティアのフォーラムに行ってこういうこと言うのもあれなんですけど、防犯ボランティアなんですけど、防犯のことだけやるっていうことじゃないですよ。なので、例えば、美化活動をしたり、高齢者の巡回だったり、空き家を回ったりって活動をされているのはとても素晴らしいことだなんていうふうに思いました。

特に、地域の美化活動ですね。これ、理にかなっていて、地域をきれいにすると、僕、学者ですので理論的な話をしますけれども、犯罪が減るって言われているんですね。細かい話はちょっとおとすけれども、犯罪が減るって言われているんですね。この後、ちょっとお話しさせていただくんですけども、防犯ボランティアをやっても効果ってほとんど見えないので、やっていてなんか意味あるのかなって思っちゃうときが出てくるんです。そんなときに美化活動って、街がきれいになるので、効果が見えるんですね。それが巡り巡って、ながら見守りにもつながりますし、ひいては治安改善にもつながるので、とてもいい取り組みなんだと思います。いろんな活動をされている中ですごくいいなと思ったところを今、取り上げさせていただきます。

他の団体さんでも、例えば、僕いろんな団体さんとお話しする中で、東京なんかでも、足立とかその辺りでは、結構、街の花を植えたりそういった活動をしながら防犯ボランティアをやっているという方がいて、すごくいい活動だなんていうふうに思いました。そんな中でちょっとご質問なんですけれども、他の団体さんに参考になるかなと思ってぜひ聞きたかったんですが、活動歴がなんと 70 年なんです。これ、これだけ続く秘訣ってなんなのでしょうか。今のところ 1 つだけです。

**発表者** 私は平成 17 年から、3 月で定年になりましたので、4 月から入りました。正直、言いまして、私、市役所の勤務しておりました。交通安全防犯活動、それも約 9 年間長かったので、市長から言われまして、第二の人生、どこかでお仕事をしませんかと紹介されましたけど、お断りしました。生まれた田面木で地域のためにやりたいということで、防犯協会にすぐ入りました。

いろいろな問題がありましたけれども、なんとか防犯協会で、もう一步前へ進みきたいという思いに駆られまして、たまたま前の会長さんがお亡くなりになられましたので、私が急ぎょ、防犯協会に入りまして、先ほど言ったように微力だが、無力ではないんだ。毎日の活動を継続するのは力になるんだということで始めてきまして。前の会長さんは急に亡くなったもので、全く引き継ぎも何もないでなったものだから、ゼロからの出発でした。そして、どうしたら前のことが分かるんだろう。警察の生活安全課の所も行って、聞いたりしました。年配の方々、少しずつ聞いてきましたけれども、防犯パトロールがしたい、パトロールはしたいでしたけれども、私の場合はそれだけじゃちょっとな、ということで活動してきまして、役員の方々も大分新しい風を吹かせようという気持ちで、今はまた、交通安全協会と一緒にやっておりますけれども、今もう 1 つ進めて、高齢化社会ですので、民生委員さんも巻き込んで、今度、活動しようということになり、そうしていかないと長く継続していかないとやってまいりました。また高齢者、その方々を育てていこう、守っていこうという皆さんが賛同してくれまして、後押ししてくれる思いはあるだろうと思ってまいりました。最年長の 93 歳の方、高齢者だらけながらやっております。これからも頑張っていきたいなと思っております。

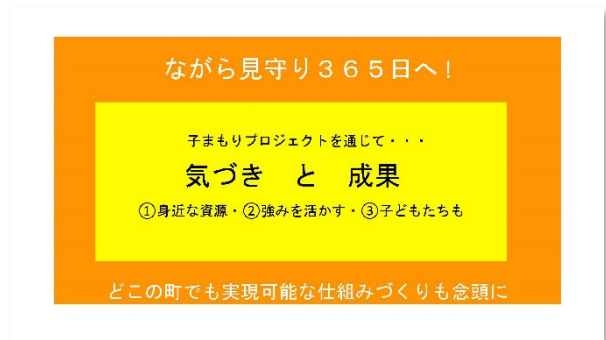


**荒井** ありがとうございます。今、お話を伺っていて、市と警察と交通安全協会とさらに今は民生委員も関わって、それだけ多様な人たちと関係を保ちながらやっているっていうのが、多分長くこう続いていく秘訣なのかなっていうふうに。恐らく防犯ボランティアって1つの団体だけで完結するっていうのは難しいので、すごくいい体制になっているんじゃないかなというふうに思いました。

**発表者** 田面木地域だけじゃなくて、私の場合は隣の町内、田面木地区、青春協議会という役員もやっております。そちらとも、今、その狭い地域だけじゃなくて、隣との連携もとっていくということをやっております。そうしないと、中学生、小学校の子供が中学校になって、高校になっていくと広まっていきますので、私たちの活動もだんだんそうってきております。それに、後継者、われわれも防犯協会役員ですけど、明るい兆しが見えてきてですね、少しずつ、役員の方、指導隊の方が、やりたいという人が見に来ておりますので、活動が認められているのかなと思っております。

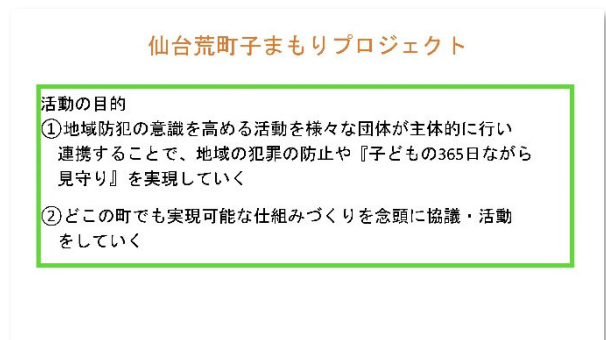
# 荒町子まもりプロジェクト実行委員会（宮城県）

仙台荒町子まもりプロジェクト実行委員長の庄子と申します。実行委員の阿部です。荒町児童館、館長の星と申します。よろしくお願いいたします。



仙台荒町子まもりプロジェクトは、仙台市内の荒町商店街振興組合と、荒町児童館、荒町市民センター、3 団体が共同で企画したプロジェクトです。地域のさまざまな団体と連携をして、子供たちを真ん中に、安心安全な町を地域連携の力で、ということで昨年立ち上げました。

立ち上げた中で、さまざまな気づきがあり、連携団体を募っていく中で、身近な地域の、身近なところには、地域のことを考えるさまざまな企業やお店、教育機関、公共機関があるんだなというところに気づきました。さらにその強みをそれぞれ生かすことで、1 団体では負担になることも、分散することで1つ1つの団体の負担を減らして、実施できるっていう部分、あとは、子供たちも参加して地域みんなで、防犯の取り組みを行っていくというところに気づきました。

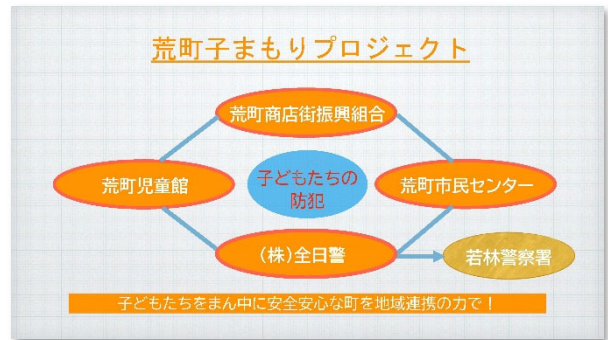


仙台荒町子まもりプロジェクトの活動地域は、宮城県の仙台市の中心部、仙台駅から地下鉄で1つ隣町に、1つの町です。そこには小学校、中学校、大学、児童館、市民センター、商店街、会社やお店がたくさんある地域です。荒町は、ご譜代町として、江戸時代から400年以上続くこうじ作りをしていた町で、昔から古く続くお店も何件か残っております。年間の主な行事としましては、毘沙門天王祭というお祭り、おみこしや、あとは、仙台七夕の荒町の七夕、そして、100年前に途絶えたという回文団扇という、うちわを商店街と児童館で復活させ、その作る事業なども荒町小学校で行っております。私



は、商店街の組合員の1人なのですが、理美容の経営をしまして、実際理容店として荒町でお店をやっております。

活動は、地域の防犯意識を、子供たちを中心に、全体の意識を高めていくっていう目的で立ち上げ、どこの町でも課題は一緒だと思うので、荒町だけではなく、どこの町でも実現可能な仕組み作りも念頭において、協議していこうという話で進めてまいりました。今日、この場で発表できることを非常に嬉しく思いますし、東北、北海道の今日、発表される他の3団体の話をお聞きして、今後の参考にできるのではないかとことも思って、楽しみにしてまいりました。私たちの活動が皆さまの町でも、何かお役に立てたらと思いますので、これから活動事例を発表しますので、それぞれの町で、想像しながら聞いていただけたらと思います。



この、子まもりプロジェクトのきっかけは、2008年にテレビの報道を見たのがきっかけです。北海道の小さな町で、子供たちにお菓子を渡す伝統的な行事があって、そこには普通の民家や子供が普通寄らない居酒屋さんとか、そういうところも参加していて、日頃から子供たちと挨拶ができる関係ができていて、ほとんど子供への犯罪が起きてないという報道でした。それを見て14年前、ハロウィンを通じて、子供たちがいつでも駆け込めるお店、地域だったらいいなということで、立ち上げたのが子まもりハロウィンという防犯の取り組みのスタートでした。昨年は、30店舗が自腹でお菓子を用意して、参加してくれるまでになりました。地元の小学校が小学生が450人ぐらい、30店舗を、袋を持って回るといって、子供にとっては最大なハッピーな1日に、すごい喜んでます。

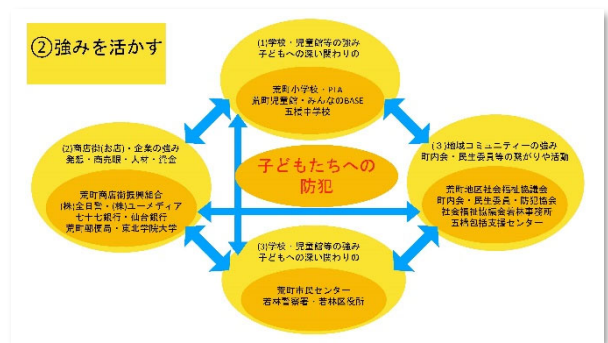
そんな中、子まもりハロウィン店舗数が増え、子供の参加者も増えることで、防犯の取り組みっていうか駆け込んでいいよっていう意味合いが薄れてきてしまって、もうちょっとしっかりとした防犯の活動をするべきじゃないかということで、駆け込まれたときに本当に正しく対応できるのかとか、そういう不安もありましたので、仙台荒町子まもりプロジェクトを立ち上げて、警備会社と若林警察署さんと協力も得ながら、立ち上げたのがコロナの前でした。



荒町小学校学区のマップなんですけども、外が赤枠が小学校の学区の範囲です。荒町商店街中央に、荒町商店街のピンクのゾーン、その右下に荒町小学校の黄緑色のゾーン、商店街、児童館、市民センタ

一、小学校は学区内のこのエリアでしかありません。それだと他のゾーンは、防犯の取り組みはやってないわけですから、その他のところもどうやったら活動できるかということで、さまざまな団体にお声掛けをして、全てのゾーンを網羅できるように防犯の取り組みを募ってまいりました。立ち上げたときは5団体だったんですが、実施する10月には16団体の連携も回り、さらに荒町小学校学区だけではなく、隣接する小学校の商店街や児童館さんにも、オブザーバーとして参加していただいて、その後、活動が広がっていくように、面で広がるようにというのも考えて、協議を進めてまいりました。

こちらが荒町子まもりプロジェクトの連携図です。このマップは、子供たちの防犯、子供たちを真ん中において、荒町の町にある地域資源、会社やお店や学校や団体、全てを書いてみたものです。その中で、子まもりプロジェクトに参加してくれそうなところは、どこかなというので抽出してお声掛けをしていきました。下の水色のゾーンは今回の子まもりプロジェクトには参加してないですが、今後何かの形で一緒にできる可能性がある地域の、まだ声を掛けてない団体です。こちらが見やすくしたものです。ここの16団体で進めてまいりました。



それぞれの団体で、それぞれの強みがあって、教育機関の強み、地域コミュニティ、町内会や民生委員さん、防犯協会さんなどのコミュニティの強み、あとは、商店街や企業というお店や企業の強みというのを生かし合うことで、さまざまな角度から子供たちの防犯の取り組みというのをアプローチできるんじゃないかと思って進めてまいりました。

**活動内容**

荒町小学校の学区内を1ヶ月間  
**荒町子まもり防犯月間**  
 令和3年10月1日～10月31日

仙台荒町子まもりプロジェクト

**③ 子どもたちも役割を担う** 地元の荒町小・五橋中へ依頼  
 防犯標語・防犯ポスターコンクール

それでは、それぞれの活動を発表してまいります。

まず最初に、地元の小学校に防犯の標語のコンクールを行いました。その標語が2つのテーマで行い、1つは子供たちをみんなで守ろうという、子まもりに対する標語、もう1つは仙台の特殊詐欺が非常に多かったため、子供が守られるだけでなく、子供がお年寄りを守っていくという意味合いで、特殊詐欺への標語も募集しました。それでこの表、特殊詐欺の標語の優秀作品を荒町地域の学区の金融機関に掲示してもらって、子供たちの標語が特殊詐欺の抑制につながればなというところで協力いただきました。





中学校では、子まもり防犯ポスターというコンクールを行い、地域で賞をあげて、こちらもそのポスターがそのまま貼って、防犯の地域の抑制になるように、防犯のポスターを複製して、120枚ほど複製していました。

それを荒町小学校学校区にある企業やお店に、一件一件、実行委員で回り、このポスターを掲示してもらえないかということで、10月、1カ月間、子まもり防犯月間ということで、さまざまな取り組みをするのでということで掲示をお願いして、実に108店舗、115カ所にポスターを掲示いたしました。



さらにその108店舗のうち、50店舗ぐらいはこの荒町児童館が作った防犯ステッカーというのを掲示してもらって、困ったときがあったらいつでも入っていいからねというのを、これは小学校で全校生徒にも、全校の児童にも伝えてもらって、荒町小学校の子供たちはこれを見ると、駆け込んでいいお店だということを認識もしております。

市民センター主催としては町内向けの防犯教室、こちらは子供の防犯だけではなく、特殊詐欺の事例の実演を若林警察署さんからいただきながら、防犯教室を行いました。



こちらが社会福祉協会さんが、日頃からしている下校時の見回り、見まもりを10月に行いました。こちらが児童館さん主催で、親子で子まもり防犯教室ということで、警察署さんから人形劇を通じて、不審者ということについて子供たちと保護者の方に教室を行いました。



こちらがリアルな防犯訓練として、子供がお店に駆け込む防犯訓練ということで、若林警察署さんに不審者役をお願いして、子供たちが不審者に声を掛けられて、お店に駆け込むっていう、駆け込まれたお店は正しく対応できるかっていうのも実際に訓練するという、その一部の模様を、動画をご覧ください。

子供が不審者に「市民センターどこにあるの」って聞かれて、子供はやっぱり「あっちだよ」とか言うんですけど、しつこく「連れてってよ」とか言われて、なかなか振り払えないという状態でした。なんとか最終的には「不審者、不審者でしょ」とか、不審者に聞いているんですね。結局「一緒にお店行こうよ、不審者なんだから」って言って、振り切ってお店に入るという感じでした。やっぱり優しい子も多いので、優しく声掛けられるとこれは連れてってしまいうんじゃないかなというのを、実際そういう周りで見ている子供たちは、逃げられたら逃げるんですけど、実際当事者っていうのは、子供たちってそういうものなのかもしれないなっていうのを訓練を通して、非常に感じました。



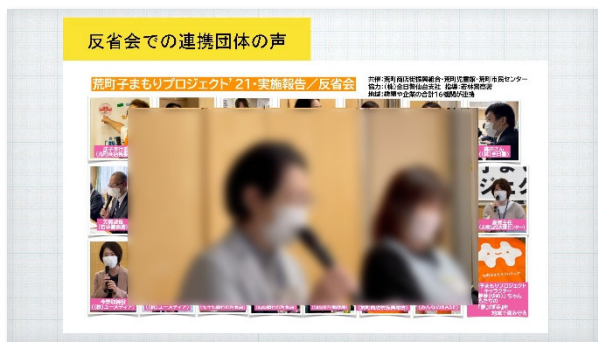
商店街ではその後、今回のリアルな防犯訓練を元に、店舗向けの防犯教室ということで、駆け込まれたときにはこういうふうに対応してくださいとかすぐに110番してくださいとか、そういうところもご指導いただき、特殊詐欺についても実演いただきました。

地元の金融機関さんでは、実際に強盗犯の防犯訓練を行いました。



あとは今年も昨年も子まもりハロウィンということで、30店舗参加した子供たちがお店を回るということで行いました。また、学校区内下にある広告印刷会社のほうでは、この取り組みを記録に残したいということで、1300ぐらい、無償で一緒に連携しているということで作っていただいて、こちらを元に外部への取り組みの発表だったりとかそういうもので使わせていただきました。





こちらが反省会。16 機関の代表の方が集まって、最後、反省会を行いました。

【動画】

1 カ月の防犯月間をやって、いろんなことができたわけなんですけれども、やっぱり顔の見える関係になれたっていうのが一番の収穫であったなあと、いうふうに思っております。

1 カ月間というね、一般での活動だったんですけども、思うにこういうやっぱり日常の活動に変えていくっていうのは一番大事なことなんじゃないかなと。登下校時に僕でもいいからね、お店の前に立って、子供たちに声を掛けるとかそういったことでも防犯につながっていくんじゃないかなと思って、その辺ちょっと私も考えて、あとこれから一生の活動どうやっていこうかっていうふうなことを考えています。



昨年の荒町子まもり防犯プロジェクトを立ち上げる際に、地域との連携の強さを改めて感じました。地域一丸となって、子供たちを中心に、地域をより良い町への意識の高さを痛感しております。児童館と商店街と市民センターが中心となりましたが、警察署さんをはじめ、16 もの多くの企業、団体が賛同して活動できたことは荒町地域の自慢のできる強みだと感じております。児童館といたしましても、訓練を行う子供たちの、防犯に対する意識が強まったと感じております。参加された保護者の方々からも、「こういう体験は必要ですね」、「参加することで気を付けなければいけないことも分かりました」の感想などもいただきました。訓練を継続して行い、経験を重ねたことで気づきから学びとなり、判断力と機転な対応が身に付くと思います。それは子供たちや地域の皆さんも同様です。昨年だけに留まらず、継続して活動してまいりたいと思います。子供たちには子供たちの真剣に取り組む姿が安心感につながり、より良い町、地域へとになっていくと思っております。さらに訓練だけではなく、普段の子供たちと地域との関わりが 365 日、みんなの目が行き届く、安心安全な町へと成り立っていくと感じております。小学校でも目標としている元気に挨拶は、誰にでもできる最善の防犯だと児童館でも毎日実践をしております。挨拶の声が響き合い、笑顔が増える町の姿が何よりの防犯です。このソーシャルアクションを荒町地域だけではなく、他地域へと情報共有を広げていき、行っていきたいと思っております。



本年度も 10 月に学区内にて、防犯月間とし、1 カ月間行う予定です。平日 7 月 6 日にキックオフミーティングを第 1 回目、開催いたしました。昨年参加してくれた関係団体と引き続き連携しながら、新た

なきっかけを商店街、児童館、市民センターさんとし、種をまいて協力者を次々に巻き込んでいきたいと思ひます。

また、この取り組みに賛同してくれた近隣地域の連坊学区からも相談を受け、防犯の取り組みが広がっていきました。この活動が少しずつ仙台地域に広がり、安心できる町作り、365日ながら見まもりが広がって、子供が困ったときに大人が助けられる町が少しでも増えるよう、活動を続けていきたいと思ひます。

**子まもりプロジェクト後の変化**

**課題**

- (1)主体的に活動する団体の確保
- (2)情報の共有、関係性づくり
- (3)仙台市内の各学区への広がり

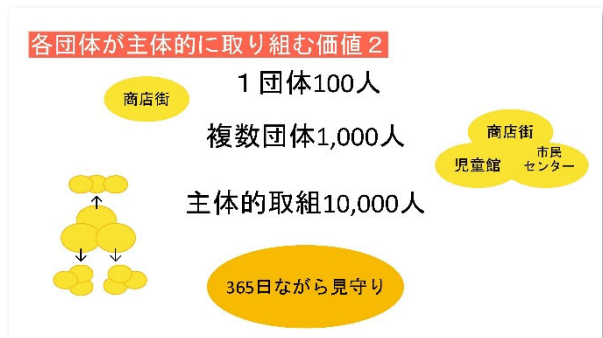
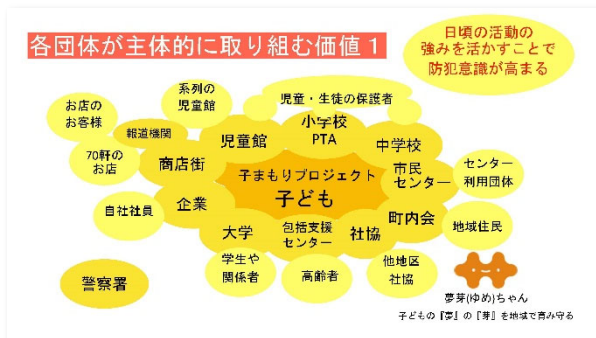
→ 解決への動き

**'22荒町小学校防犯訓練 (不審者対応)**  
荒町小学校主催・子まもりP実行委員会・若林警察署

各団体の主体的な取り組み 8

子まもりプロジェクトをやっている中で、3つの課題がありました。

その後、課題を解決の中の動きになっておりまして、こちらは小学校での今年行われた、小学校での防犯訓練というのも若林警察署さんの協力を得ながら、子まもり実行委員会としても、ぜひ警察を紹介してほしいということで実演にいたりました。

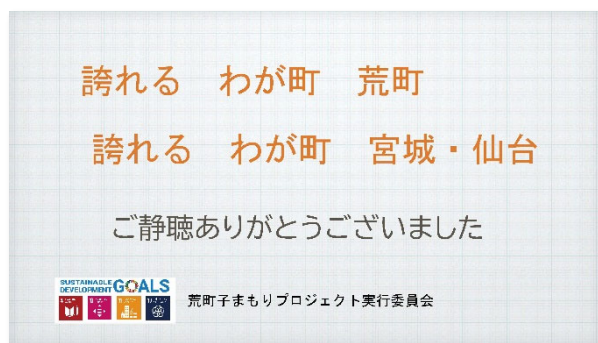


各団体が主体的に取り組むっていうことに重きを置いておりまして、普通ですと実行委員会としてさまざまな取り組みを行うんですが、それぞれ皆さん仕事を持ったりとか、忙しい中で、それぞれが自分の得意なテリトリーの中で、活動をして、広げていくということで、例えば、商店街でいえば、商店街として防犯の取り組みを行ったことは、警察からご指導いただいたことを商店街の加盟の、70店舗のお店に告知をする、伝達をして、そのそれぞれのお店はそれぞれのお店のお客さんを持っているので、例えば「特殊詐欺って最近こういうのがはやっているみたいなんだよ」とかっていうのを今度店舗側からお客さまへお伝えすることで、防犯の意識を持つ人が広がっていくのではないかと考えております。商店街がこれが一例ですけども、他の団体にもそれぞれつながりのある、それぞれのバックボーンというか、連携が繋がっている先に、伝えていただければなということを考えております。

1 団体でやれば 100 人程度の取り組みも、複数団体連携することで 1000 人規模になり、主体的な取り組みでその関係、各団体がそれぞれの関係者に伝えることで大人の目を広く、意識する目を広げていって、365 日ながら見まもりにつなげていけたらなと考えております。さらに情報共有ということで、5 月に SNS のグループを実行委員の 16 団体のうち、14 団体で、グループ LINE でつなぎました。先日、2 日前に、仙台市内の中学生が不審者に刺されるという、通学中に刺されるという事件がありましたけれども、そのときも若林警察署さんからご連絡いただき、すぐにグループ LINE でも情報共有して、一番最初



に入った団体のところがこのグループ LINE にすぐ回して、商店街でいえばここに上がってきた防犯の情報を商店街のグループ LINE にも回して、広げていくというか、周知していくということにまで広がってきました。また、先ほどの荒井先生の話にもありましたけれども、防犯の取り組みだけではなく、やっぱり日頃から関係性作りを、こちらは広告会社が毎月やっている清掃活動に商店街としても参加したりとかですね。あとは、荒町商店街の七夕作りに他の団体の社員さんが手伝いに来たり、少年会の人と一緒に教えてくれたりっていうので、顔の見える関係を日常的に作っていくってことがながら見まもり 365 日につながっていくことだと思います。こちらは、うちわ作りを小学校で学院大生とか、学院大の先生とか、あとは町内の人とか、先生役として一緒に子供たちに教えたりもしております。



この活動を通じて、この活動と一緒にしている小学生の子供たちからお礼のメッセージが届きました。その中で、「私たちがこれから私もこれから優しくされるだけではなく、優しくできる人になりたい」とか、「僕も大人になったら人の役に立てる大人になっていきたい」というメッセージももらいました。きっと私たちの背中を見て、こういう、そう感じてくれる子供たちがこれからの地域課題解決の防犯の担い手になるのではないかと確信をしております。最後に、この取り組みをできるだけ多くの人に伝えて、子供たちの夢の芽をみんなで育てていけるようにこれからも活動してまいりたいと思います。



先ほどの防犯教室の子供のシーンだけちょっともう一度、最後見ていただきたい。

#### 【動画】

短縮したんですけど、このやりとりが結構、長く続いて、こういう取り組みで訓練っていうのは非常に大事だなっていうことを感じました。

以上で発表を終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

#### 講評

**荒井** ご説明ありがとうございました。荒町子まもりプロジェクト、実は2月に一緒になって、そのときにコメントさせていただいたのと同じになってしまうかもしれないんですけど、ちょっといくつかお話をさせていただこうと思います。まず一点目なんですけど、やっぱりとってもいいなと思う点としては、これだけこの地域のステークホルダーが、完全団体がコラボレイトしているとか、多分、横文字多いですけど、連携しているのは多分、全国にいてもかなり珍しいんじゃないかなと思うんで、ぜひ今回参加されている方も1つの目標として目指されるといいのかなというふうに思いました。いや、本当にすごいなあとと思います。僕は九州から北海道まで行ったことあるかな、防犯ボランティアのほうのイベント



でいろいろ行きますけど、ここまで連携しているのはなかなかないですね。ですので、ぜひこれからも続けていただくといいかなというふうに思いました。その上で、いくつか質問なんですが、1つ目は、この活動の主体ってどこにあるんですか。主体っていうのはつまり、方向付けをしている人たちが必ずいると思うんですが、それは荒町商店街振興組合さんと荒町児童館、それから荒町市民センターの3つが主体になっているんですよね？

**発表者** そうです。

**荒井** ぜひここにいる団体さんも何かの主体があって、その周りにいろいろ関連団体があるっていう構造になっているので、図を見るとなんか全員が、何て言うか、主体みたいになっている、なかなかそれは難しいんですね。団体が違えばやっぱり方向性が全く違うので、どこかが方向付けをしないと多分主体が、活動がばらばらになっちゃうんで、きっとこの3つが方向付けをしているってことですね？

**発表者** そうです。

**荒井** そういう構造にあるっていうのは、ぜひ知っていただきたいなっていうふうに思いました。それから、これは主観的な感想というか、思いでもいいんですけど、どうしたらこんな連携できるんですかっていうのをぜひ教えていただければと思います。

**発表者** そうですね。実は、防犯をやるから集まろうよっていう団体ではなく、例えばコロナ渦で、小学生が作った歌を地域みんなで歌って、大合唱をリモートで発信してみんなを元気にしようみたいな取り組みをコロナ渦で行ったんですよ。最初はコロナ渦前にこの団体でやろうって決めて、2020年の6月に実施しようと思っていたら、すぐコロナになってできなくなって、じゃあコロナだから何か地域で何かやろうよっていう中で、合唱やろうよってなったときに、市民センターさんは地域の活動でいつも市民センターさんを利用する地域の人たちの団体を非常に持っていて、そこにも投げかけてくれたんですよ。そしたら例えば阿波踊りの会とか、合唱と一緒に参加してくれて、市民センターさんってこういう地域のつながりの強みを持っているんだなっていうところに気づいたんですね。1つの例ですけど、それをじゃあ子まもりプロジェクトを今度やるので、市民センターさんのつながっているところにもお声掛けして、商店街は商店街で、日頃の七夕とかおみこしと一緒にやっている団体に、じゃあ今度、子まもりっていうテーマで、防犯のテーマでこういうことやりたいんだけど一緒にやりませんかっていうので、参加してくれたっていうことです。

**荒井** 何て言うんでしょう。聞いていると、防犯ボランティアっていうより、もう町おこしですよ？

**発表者** まちづくりみたいな。

**荒井** まちづくりですよ。だから、それがとってもいいなと思っていて、防犯ボランティアだけにこだわってしまうと、しんどくなっちゃうんで、みんなが楽しかったらそれでいいじゃないかっていうのがあるので、町作りをしながらその一環として、子供たちの見まもりだったり、地域の防犯力を上げら

れるっていうようなありかたっていうのは、とってもいいなというふうに思いましたし、ぜひ参考にしていただけたらいいんじゃないかなというふうに思いました。以上です。

# 防犯・交通米沢少年隊（山形県）

皆さん、こんにちは。私たちは、防犯・交通米沢少年隊、隊長松木優汰、副隊長花輪茉瑛、副隊長畑田葵です。これから少年隊の活動を、スライドでご紹介します。よろしくお願いします。



## 防犯・交通米沢少年隊



松木優汰 花輪茉瑛 畑田葵

## 米沢市



初めに、私たちが住んでいる米沢市について説明をします。米沢市は、山形県の最南部に位置する、置賜地方最大の都市で、人口は、約8万人です。

## 上杉まつり



武田信玄

上杉謙信



上杉謙信

上杉鷹山

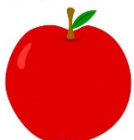
上杉氏の城下町と知られています。

こちらの写真は、米沢市最大の祭り、上杉まつりの様子です。上杉氏の中でも、家の祖、上杉謙信公と、中興の祖、上杉鷹山公は、特に顕彰され、全ての小、中学校の体育館に肖像画が掲げられています。

特産品としては、米沢の味 ABC として、A、Apple、館山リンゴ、B、Beef、米沢牛、C、Carp、食用コイが有名です。

## 米沢の味 ABC

Apple Beef Carp





## 防犯・交通米沢少年隊



発隊

平成12年

その頃…

小学生殺人事件  
高校生バスジャック事件

次に防犯・交通米沢少年隊について説明します。少年隊は、平成12年に、米沢市内の中学生で希望者を募り、発隊したと言われております。

そのころ、中学生による小学生殺人事件や、高校生によるバスジャック事件など、10代の少年による凶悪事件が起きていたそうです。

中学生がすすんで考え・自ら行動する  
ボランティア



平成12年10月29日 米沢市こやかセンター

令和4年



このような社会背景から、中学生自身が、進んで地域のための活動を行うことで、社会の一員である自覚を持ち、規範意識を高め、思いやりの心や、自ら考えて行動できる力を育成することを目的に、中学生のボランティア団体として、少年隊が組織されました。

少年隊は、今年で22周年を迎え、これまで約600人以上の先輩方が活躍してきた、とても歴史ある団体です。

輝きの心伝承式～3年生卒隊1年生入隊



米沢市内全中学校から52名



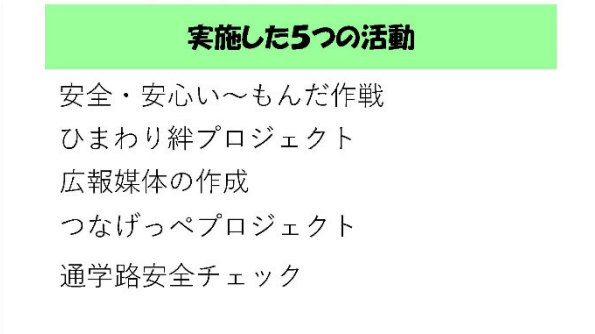
毎年10月に、中学校を通して入隊希望者を募集し、12月に『輝きの心伝承式』が行われます。これまで活動していた3年隊員が卒隊し、新たに1年生が入隊するセレモニーです。私たちも、この伝承式で初めてこの制服を身に着けたときは、身が引き締まったことを覚えています。

現在は、3年生27名、2年生25名の、計52名の隊員で活動しています。



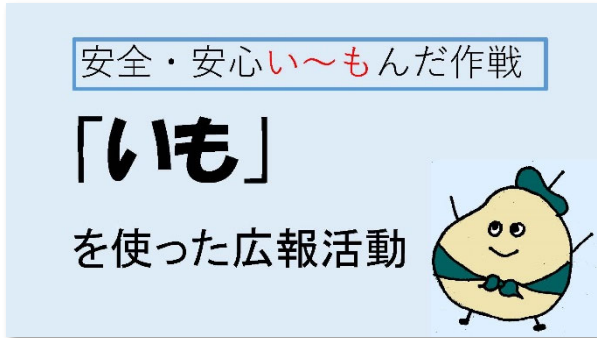
少年隊のスローガンは、『笑顔 100%、犯罪 0%』で、先輩方の意思を引き継ぎ、安全、安心の町づくりのため、さまざまな活動に取り組んでいます。

少年隊には、広報キャラクターがおりますので、ご紹介します。先ほど、米沢の ABC についてお話ししましたが、その ABC に合わせています。



A はリンゴをモチーフにしたりんごろうです。主に犯罪被害にあいそうな人に、注意を呼びかけています。B はビーフで牛をモチーフにしたかぎたろうです。金太郎は、熊にまたがっておりますが、牛にまたがるかぎたろうは、鍵をかけていない人に、鍵かけろと呼びかけます。C はこいのぼりをモチーフにした安心こいちゃんです。こいのぼりで空を飛ぶ安心こいちゃんは、交通安全を呼びかけています。

それでは、少年隊の主な活動について、写真とともに紹介します。1つ目にご紹介する活動は、『安全・安心い〜もんだ作戦』と銘打った、農作業と防犯広報を組み合わせました活動です。



い〜もんだ作戦とは、その名の通りイモを使った広報活動です。警察のボランティア団体、少年補導員会長の畑をお借りして、みんなでジャガイモとサトイモを育てています。





8月にジャガイモを収穫、10月にサトイモを収穫しています。

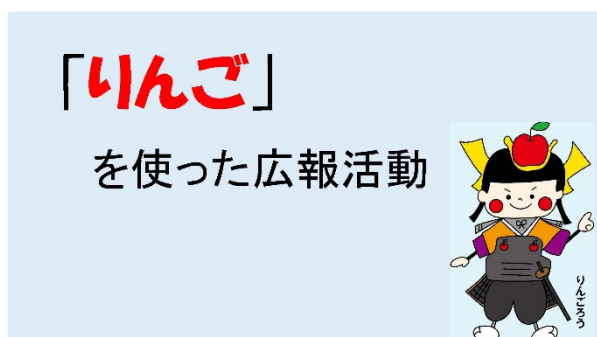


そして自分たちで収穫した2種類のイモに、それぞれ心を込めて手書きのメッセージを添え、銀行や市役所、大型店舗などで配布しています。市民の皆さんは、笑顔で受け取り、「家族みんなで食べながら、防犯に気を付けるよ」と言ってくださり、とてもうれしかったです。



今年度新たに、リンゴの栽培も始めました。

5月に地域の防犯協会や、少年補導員の方々と一緒に、リンゴの花の摘み取りを行いました。



今後、袋掛けや、シール貼りなどをし、収穫まで育てていきます。私たちの、自分で農作業をやることに、農家の方々の大変さ、働くことの苦勞もよく分かりました。食事の際、作ってくれた方々に感謝して、いただくようになったと感想を述べる隊員もおりました。

キャラクターのりんごろうや、リンゴを使った広報活動も計画しています。



## 実施した5つの活動

安全・安心いーもんだ作戦  
ひまわり絆プロジェクト  
広報媒体の作成  
つなげっぺプロジェクト  
通学路安全チェック

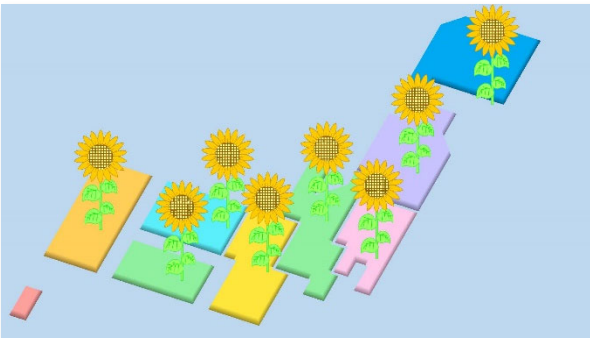


2つ目の活動は、『ひまわり絆プロジェクト』です。

### ひまわり絆プロジェクト



### ひまわり絆プロジェクト



### ひまわり絆プロジェクト



『ひまわり絆プロジェクト』とは、京都府で4歳のお子さんを交通事故で亡くされた、お父さん、お母さんが、自分の子供は亡くなってしまったけれど、この種を多くの人が植え、育ててくれば、子供の代わりに日本中に行くことができると、それまで子供と育てていた、ヒマワリ種を、京都府の警察官に渡したもので、その後、保護者の思いを受け継いだ全国各地の警察や、ボランティア団体が育てているものです。

### ひまわり絆プロジェクト



### ひまわり絆プロジェクト



山形県警が、昨年京都府警から頂いたヒマワリの種を、少年隊ももらい受け、その種を植え、大切に育て、昨年8月には、大輪の花を咲かせました。

## 被害者支援のつどい2021



## ひまわりの輪が ひろがる

米沢六中

米沢七中



その後、花から採取したヒマワリの種は、山形県内のさまざまなイベントで配られた他、私たち自身で、米沢市内の小学校に持参し、児童の皆さんに育てていただくようお願いいたしました。さらに今年度は、米沢市内の2校の中学校からも、うちの学校でも育てたいと申し出があり、その輪が広がってきていることが、とてもうれしいです。

### 実施した5つの活動

- 安全・安心いーもんだ作戦
- ひまわり絆プロジェクト
- 広報媒体の作成
- つなげっぺプロジェクト
- 通学路安全チェック

### 防犯動画の作成



3つ目の活動が、広報動画などの作成です。

動画やポスター、のぼり旗などを作っております。一昨年、先輩方は、防犯動画を作成しました。

### 防犯広報動画作成



### ポスター・のぼり旗 制作

印象に残る  
デザインとは、



詐欺被害防止や鍵かけ推進、交通安全などをテーマを決め、地元のケーブルテレビを協力を得て防犯動画を5本、交通安全動画を1本作製したそうです。ケーブルテレビで放映された他、映画館などでも流してもらいました。

### ポスター・のぼり旗



昨年度は、防犯動画の他、のぼり旗やポスターを作製しました。印刷会社のデザイナーの方に講師になっていただき、みんなが注目するものを作るには、どうすればいいかについて教えていただき、中学校ごとにテーマを決め、それぞれ作成しました。



ポスター・動画・のぼり旗

ができるまで



完成までの流れについて説明をします。

6月の研修後、各学校のグループでデザインを作成しました。

大人の心をつかめ！プレゼンテーション大会

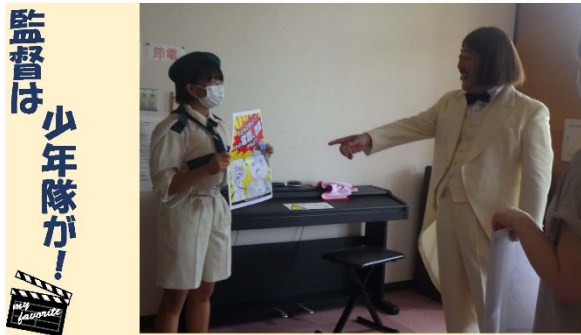


ポスター・のぼり旗作成



7月にポスターなどの作成費用を出してくださる団体の方に集まってもらっていただき、各テーマごとにプレゼンテーションを行い、大人の方々からも意見をもらいながら、構成を粘り上げました。

8月には、山形県内で人気のタレント、ミッチーチェンさんにモデルになっていただき、撮影会を行いました。



ポスター・のぼり旗作成



撮影会では、ミッチーさんに、私たちが希望する衣装や、取ってほしいポーズをいろいろとお願いしましたが、ミッチーさんは、全て笑顔で引き受けてくれました。いつもはテレビで見るミッチーさんと一緒に作品作りをすることができたのは、とても貴重な経験でした。



その後も、みんなで意見やアイデアを出し合い、できあがった作品がこちらです。ポスターは、現在市役所や各事業所、学校や、銀行、コミセンなどたくさんの方に掲示されています。





のぼり旗は、少年隊のキャラクターを使い、2種類作成しました。こちらが、そののぼり旗です。

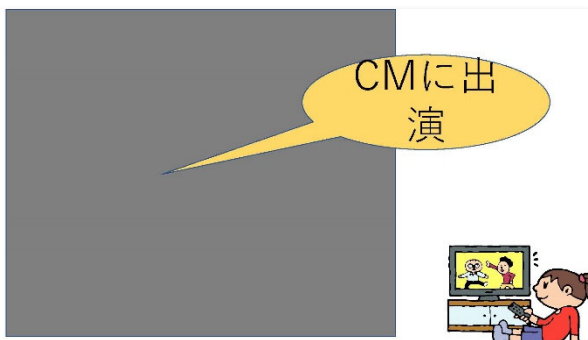
のぼり旗もたくさんの場所に掲示された他、キャンペーン時に掲げています。



さらに防犯動画も作成しましたのでご覧ください。

【動画】

電話でお金の話が出たら、電話でお金の話が出たら？あなたを騙す手口かも？盗られたお金は戻らない。はい、ダメ、ダメ、ダメ、ダメ、ダメ。のっちゃダメ。まずは、相談。



いかがでしょうか。こちらの動画は、10月の全国地域安全運動期間中、テレビCMとして、県内全域に放映されました。テレビのCMになったと聞いたときは、とても驚きましたが、米沢市民だけでなく、山形県の皆さんに、私たちの作品を見ていただくことができ、少年隊の活動にやりがいを感じました。

CMに出たことで、少年隊活動への周囲の関心が高まり、隊の活動が米沢市報に特集で取り上げられま

した。市報を通じて、多くの方々に少年隊の活動をPRすることができました。

## アナウンサー研修会



## アナウンサー研修会



今年度は、青パトなどの車で流す広報用音源を作成する予定で、6月にプロのアナウンサーから、発声の指導をしていただきました。現在制作中です。

### 実施した5つの活動

- 安全・安心いーもんだ作戦
- ひまわり絆プロジェクト
- 広報媒体の作成
- つなげっぺプロジェクト
- 通学路安全チェック

## 少年非行・被害防止プロジェクト



4つ目の活動は、『つなげっぺプロジェクト』への参加です。

僕の通う米沢五中は、昨年度山形県警からの、県内で2校のうちの1校として、非行防止プロジェクトの事業の指定を受けました。

### つなげっぺプロジェクト



【推進員】  
米沢五中学区の小学校・中学校・大学・幼稚園・保育園・防犯協会・  
少年補導員会・コミュニティーセンター・青少年育成団体  
小学校PTA・中学校PTAなど



名称募集し生徒総会で決定

この非行防止プロジェクト事業は1つの中学区の幼稚園、小学校、中学校、大学、青少年団体などが一体となり、SNS被害防止の広報活動を行うというものです。

米沢五中生徒全員でプロジェクト名を考え『つなげっぺプロジェクト』と名付けました。

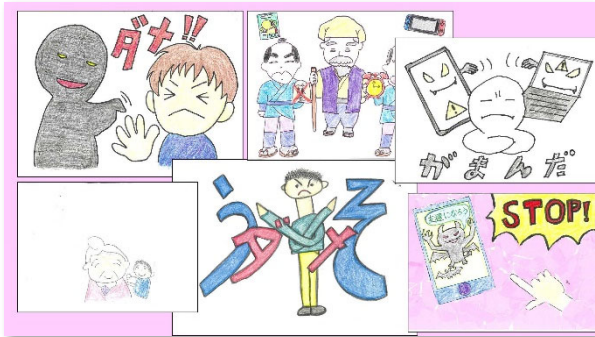




まず、最初の活動として、僕たち米沢五中の少年隊員が小学校に出向き、インターネット利用で被害にあった小学生や中学生、大学生、大人に扮した SNS 被害防止劇を行い、小学生に対して、SNS の怖さや、安全な利用を伝えました。



その後、警察署の少年補導専門官の方が、歌で SNS 被害防止の意識を高めようと考え、アメリカ民謡に作詞をした、『なかよしねっと』と歌を作りました。



その歌詞に合わせたイラストを小学生、中学生、保護者の方から募集し、イラストコンクールを行いました。さらに、幼稚園児から大人まで、多くの方が強力して、歌の録音を行い、イラストと歌を合わせた動画を作成しました。その動画がこちらです。



【動画】

なかよしねっと、みんなで歌いましょう。

(♪) 知らない人には会いません。個人情報出しません。ムダにしません金と時間。あなたを守る！悪口書かない。うそは流さない。不安になったら迷わず相談。ネットは便利な道具です。危険があるのも忘れずに。やみに打ち勝つ力をみんなでつけよう。

判断する力。がまんする強さ。人を思いやるやさしい心。子供にスマホを買ったなら与えた大人の責任



です。子供とじっくり話し合いルールを決めよう。ルールを破ったらペナルティーをつける。大人自身も約束守る！ネットを上手に使うには知恵と工夫が必要だ。ネットを使わない時にはもう戻れない。大人も子供もそれぞれ考え明るい未来をみんなでつくろう！つなごうみんなで！

みんなでつなげっぺ。

～米沢市内全体へ広がる～



いかがでしたか。小さい子から高齢者まで、この動画を見たり、この歌を歌うことで SNS 被害防止に関心を持つことができると思います。山形県内だけでなく、今日お聞きの皆さんからも、東北、北海道の各地に広げていただき、つながればうれしいです。米沢五中でのプロジェクトの指定は終了しましたが、このプロジェクトの活動は、現在の米沢市や周辺の学校に広がっています。

また、少年隊員の中でダンスをやっている隊員がいることから、この歌にダンスを振り付けし、8月6日に行われる、山形県警音楽隊の演奏会で披露する予定です。

### 実施した5つの活動

- 安全・安心いーもんだ作戦
- ひまわり絆プロジェクト
- 広報媒体の作成
- つなげっぺプロジェクト事業
- 通学路安全チェック

### 危険箇所ってどんなところ??



最後にご紹介するのは、『通学路安全チェック』活動です。これは、今年度新たに実施した活動で、自分たちで通学路を実際に歩き、危険な場所や、困ったときの駆け込み場所である、こども 110 番連絡所の場所を確認するものです。

### 実際に歩いてみた



初めに、危険な場所とはどういう所か、警察の方から研修を受け、その後グループに分かれて、危険箇所を点検しました。実際に歩いて確認すると、改めて危険な箇所、たくさんあることが分かりました。危険な場所について、知識を得ることで、注意して歩くことができるようになったと感じています。ま

た私たちが確認した所が、点検した学区の小学校に連絡され、児童の安全のために役立ったと聞いており嬉しく思いました。最近の主な活動については以上です。



## 課題

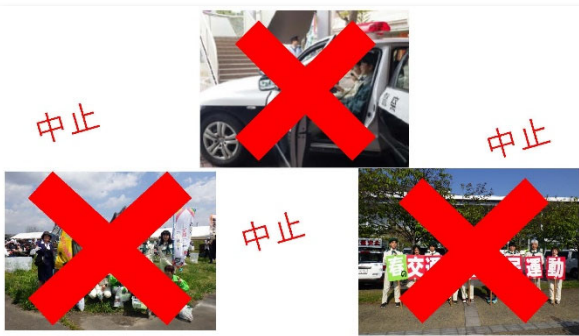
- ① コロナに負けない！

私たちの活動の頻度ですが、不定期ではありますが、一年を通じてさまざまな活動に取り組んでいます。ただ、平日は学校がありますので、活動は放課後の時間帯や、土日祝日、夏休みなどの長期休業期間中などを中心に活動しています。

次に活動の課題についてです。課題の1つ目は、コロナ禍でいかに活動するかです。



もともと少年隊は、地元の祭りに参加するなどをし、防犯を呼びかける活動を行っていきました。



## 非接触の広報活動



しかし、新型コロナウイルス感染拡大で、祭り自体が中止になってしまった他、人が集まれる機会が大幅に減少したことで、これまで通りの活動ができなくなりました。コロナ禍は、まだ終わりが見えず、そのような中で何ができるか考えました。

この課題を解決するために、先ほど発表した通り、SNS の配信や、ポスター掲示による広報など、非接触型の活動を実施してきました。



## 少人数で創意工夫



## 課題

- ① コロナに負けない！
- ② 少年隊をみんなに知ってほしい！

また、隊員が通う学校ごとのグループに分け、少人数での活動にし、創意工夫した活動を行いました。課題の2つ目は、少年隊の活動をもっと多くの方々に知ってもらうには、どうすればいいかということです。活動している様子を見てもらうことで、地域の方が防犯を意識してくださると思いき、少年隊に入りたいと思う人々が増えるのではないかと思います。



## 指導員の先生方



私たちの活動がテレビCMで流れたことから、市の広報担当者の目にとまり、米沢市報にも特集で載せていただくきっかけにもなりました。

少年隊の活動は、私たち中学生だけではできません。少年隊には、ご指導して下さる指導員の先生がたがいます。

## 大学生ボランティア



また、大学生ボランティアが指導員として活動してくれるようになりました。

年の近いお兄さん、お姉さんとの活動は、普段の生活や進路などを相談できる機会にもなりますし、活動がより楽しく、充実したものになりました。





さらに、防犯協会や、少年補導員など、地域のボランティアの方々が、多くの市民の皆さまのご支援を受け成り立っております。

私たちは、多くの皆さまに感謝しながら、少しでも町の安心、安全につながるように、これからも頑張っていきます。これで、防犯交通米沢少年隊の紹介を終わります。ご清聴ありがとうございました。

#### 講評

**荒井** ご説明ありがとうございました。他の防犯団体さんにはない、斬新な活動がたくさんあって、若い人たちの力だになっていうのを、よく感じた活動でした。特に、動画は、やっぱり若い人じゃないと、なかなかちょっと厳しいのかなっていうのもあるので、そういったところを、うまく強みというか、皆さんならではの活動になっているってというのは、感銘を受けました。

これ、ちなみに、活動自体はどうやって発想しているんですか。皆さんがこういうのをやりたいって言って、それをやっているのか、それとも指導員の先生と一緒に話しながらやっているのか、という形でやられているんですか。

**発表者事務局** それでは、米沢警察署で事務局をやっております、渡部と申します。この活動につきましては、指導員の先生や、大学生のボランティアの方、それから私たち、それから子供たちとの協議をしながら、こういう活動をやってみたいねっていうふうなことで、1つのアイデアからどんどん膨らませてやっているのが実態です。

**荒井** やっぱり、先ほどの仙台の方の連携という形でお話させていただきましたけど、今回も警察署の方と、いろいろ大学生とかって関わって、やっているってことですね。分かりました。やっぱり、1つの団体で完結するのが難しいなっていうのが、正直防犯ボランティアで考えているときに思うことで、だから、これはこれで、すごくいいやり方だなというのを思いました。あと、もう1つは、情報発信は、警察さんのホームページに載っているんですか、この動画は。

**発表者事務局** 今、皆さんの『なかよしねっと』という楽譜、ご覧いただければと思いますが、そこにQRコードが付いております。いろいろ工夫をしまして、県警のホームページのほうに載せていただいておりますので、動画も見られますし、伴奏のほうも聞けますので、歌えるようになっていますので、ぜひご利用ください。

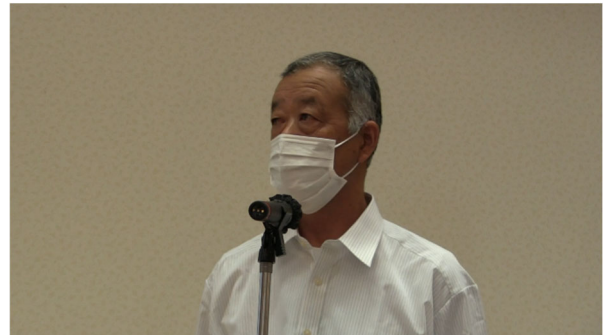
**荒井** 県警のホームページに載っているんですね。できれば、もうちょっと積極的に発信されたほうがいいかなというのが、正直思うところでございます。というのも、僕、山形県警さんとちょこっと関わりがあって、特殊詐欺のほうの話とかいろいろやっているんですけど、やっぱホームページに載せただけだと、なかなか市民の目に届かないんですよ。

それをどうするかって、僕もよく分かってないんですけども、例えば、何かのイベントのたびに、さっきの歌を流すとか、もうちょっと積極的にされると、認知度がすごい高まって、コンテンツがいいので、広まっていくんじゃないかなというふうに思う。

ミッチーさん、僕、存じ上げてないんですけど、ミッチーさんが出ていた動画もすごく面白かったの  
で、ちょっとネタみたいになってしまうかもしれないんですけども、もうちょっと積極的にアピールされると、広まっていきそうな気がします。すみません、主観的な話になってしまいました。以上です。

## 福島北地区防犯指導隊北信分隊（福島県）

こんにちは。福島県福島市から参りました、防犯指導隊北信分隊の隊員、後藤俊彦と申します。よろしくお願いたします。発表したいと思います。



### 福島北地区防犯指導隊北信分隊



～地域の安全は地域のみならず自身で守る～

### 地域紹介



初めに、私たちの活動地域についてご紹介させていただきます。

私たちが活動している地域である北信地域は、福島市の北部に位置しています。ちょうど米沢少年隊の隣が、福島市になります。

### 隣接する観光地 飯坂温泉



### 福島市の北信地域

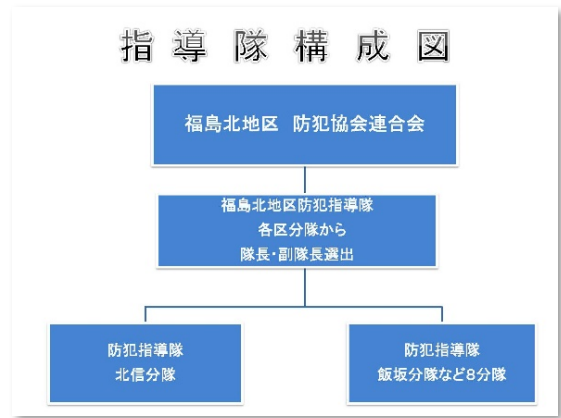
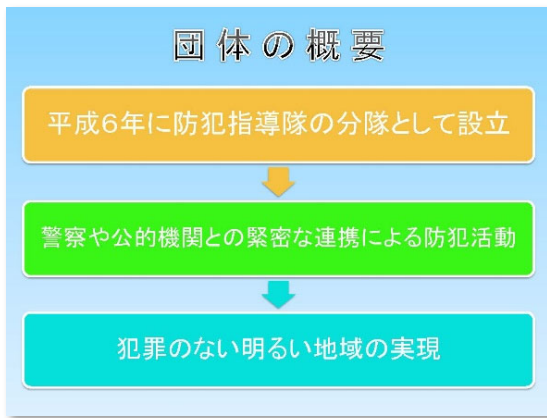
#### 果樹畑と都市化する対照的な町並み



北信地区の北部には、福島県の温泉街として有名な飯坂温泉の温泉街が接している所です。

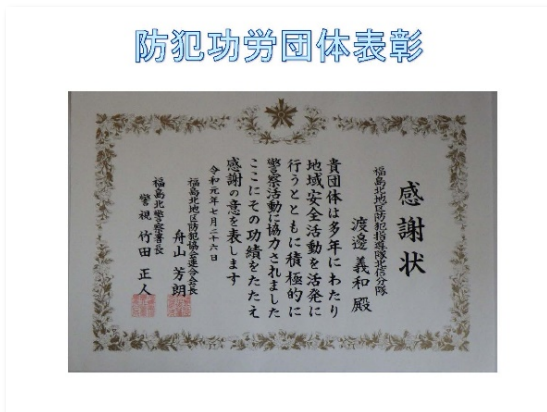
また、果樹栽培も盛んでありまして、モモ、リンゴ、ブドウ、サクランボなどの果樹畑が多く、まさに、フルーツ王国福島を想像する地域となります。また、北部には国道4号、西部には国道13号が南北に走り、主要な交通網の間に位置し、福島市公設卸売市場もあります。ですから、近年では、果樹畑よりも、大型ショッピングセンターや、新興住宅地として開発もあって、北信地域も都市化の一面を見せております。





それでは、団体の概要をご説明します。防犯指導隊の北信分隊は、平成6年に防犯活動を積極的に行う組織として、各地において防犯指導隊が発足されていた当時、福島北地区防犯指導隊の分隊として設立しました。その後、地区、分隊の編成の見直しによって、平成18年に現在の北信分隊になりました。

事務局は、分隊長の元に置き、隊員、総務は、協力体制を整え、警察、学校、防犯レディース会などと連携を図りながら、青パト2台を活用し、防犯活動を展開しながら、犯罪のない明るい地域の実現を図っています。指導隊の構成は、福島北地区防犯協会連合会と、福島北地区の8地区に、防犯指導隊が構成されています。各防犯指導隊の分隊長から選出された者が、福島北地区防犯指導隊の隊長、副隊長に選出されます。福島北地区の防犯指導隊の隊員総数は、現在62名となっています。その中の1つの分隊が、北信分隊になります。北信分隊は、現在、分隊長以下、12名で活動しています。



なお、北信分隊は、長年の積極的な防犯活動が認められ、令和元年に、福島北地区防犯協会の防犯功労団体表彰、令和2年には、福島県防犯協会連合会の防犯功労団体表彰と、2年連続で表彰を受け、分隊の活動が内外に認められていると思っています。

## 活動内容

- 1 安全パトロールの実施
- 2 小学校新入学児童に対する活動
- 3 子供見守り活動と果樹パトロール

## 1 安全パトロールの実施

活動は、安全パトロールの実施、小学校新入学児童に対する活動、子供見守り活動と果樹パトロールを主たる活動としています。

安全パトロールは、事件、事故の防止に向けた防犯活動の取り組みとして、青パト2台を活動しながら、活動地区内のパトロール活動を行っています。

### 青パトによる安全パトロール活動



安全パトロールの活動は、子供見守り活動として、隊員2名で毎週1回実施しています。青パトを使用した、夜間の安全パトロールは、警察官の生活安全課員と連絡を密にし、合同で毎月20日ごろに、隊員6名が参加して、月1回行っています。

夜間の安全パトロールは、少年指導などや、隊員の危険防止の点から、多数で行うこととしていますので、地域の少年補導協力員、防犯レディース隊の隊員の協力を得て、合同で防犯活動を実施しています。合同で実施することにより、防犯に関する警察などとの意思の疎通と、共通の認識を図っています。警察官と一緒にパトロールしますので、隊員の交通事故などの、各種事故防止にもなると考えています。また、パトロール中には、警察官とも話がしやすく、警察との意見交換の場として、隊員からは、意義の深いパトロール活動であると、高評価を得ています。

ゲームセンターでの非行防止パトロール



ゲームセンターでの非行防止パトロール



合同パトロールでは、少年の非行防止、事故防止を目的とした、繁華街のパトロール活動として、大型ショッピングセンターや、ゲームセンターでの非行防止パトロールを実施しています。

ゲームセンターなどの従業員には、警察と共に、防犯指導や、情報交換として、声の掛け合いを行っています。ゲームセンターの従業員も若手なので、不安解消が図られるのか、若手従業員の方からも感謝の弁を受けています。

地元神社の祭礼警戒活動



さらに、例年の5月と10月に行われる地元の神社の祭礼時には、神社の境内や、周囲の危険箇所をパトロール活動を、活動区内の大学、中学校、小学校の教職員や、保護者会などにも声をかけて、多数で実施しています。

学校教職員は、学生の顔を知っていることから、より少年などへの指導もしやすいこともあったり、職員も学生の実態を知ることができる機会でもあり、より深い防犯活動ができています。

## 2 小学校新入学児童に対する活動

小学校新入学児童への防犯グッズの交付



例年7月には、地区内の瀬上小学校の入学式に参加し、新入学児童に対する防犯グッズを渡しています。





今年は、入学記念品として、学用品などを収納できるナップザックを購入して、交通安全協会の女性ボランティアと合同で実施し、新入学児童へ渡しました。防犯グッズの配布は、新入学児童にも楽しみにして受け取り、保護者もグッズに防犯広報のチラシを入れて渡していますので、防犯活動、防犯チラシを読んでいただける機会にも恵まれています。

新入学児童への防犯グッズの配布は、効果の高い防犯活動となっています。

### 3 子供見守り活動と果樹パトロール

#### 子供見守り活動



次に、この見守り活動として、週に1回の頻度で地区内の小学校の通学路において、下校時における子供見守り活動を実施しています。



#### 盗難防止に向けた 果樹パトロール活動



特に、新入学児童は、学校や、通学路にも慣れていませんので、小学校の教職員とも合同で、新入学児童の下校時に付き添って、歩くなどして、見守り活動を強化しています。隊員には、月1回の見守り活動への参加としています。各隊員は、過度の負担とはならないように配慮し、無理はなく、長続きできる活動となるように心掛けた計画をしています。

果樹パトロールについては、例年サクランボ、モモ、リンゴ、ブドウなどの盗難被害を防ぐため、例年6月から11月の収穫時期に、週に1回の頻度で青パトを使用した、果樹畑のパトロール活動を実施しています。



それぞれの果樹の収穫期が異なりますので、長期に及びます。

パトロールの時間は、夜間が主体となります。この時期は、隊員への負担も高くなりますので、隊員には月1回の果樹パトロール活動への参加となるように、計画をしています。果樹パトロールは、果樹のために行っていますので、果樹農家、農協職員にも協力をいただいて、合同で活動しています。警察とも連携を取って実施していますので、果樹の盗難防止にも効果が上がっています。

## 活動頻度

## 活動内容

毎週 子供見守り活動	8月～10月 果樹パトロール
毎月 青パトによる警察との合同パトロール	10月 福島北地区全国安全出動式
4月 新入学児童への防犯グッズの贈呈	12月 年末年始・事故防止活動
6月 総会の開催	
8月 地元神社の祭礼における警戒活動	

## 防犯パトロール出動式



活動頻度については、先ほどの活動内容の説明と重なってしまいますが、子供見守り活動については、毎週1回実施としています。警察などとの合同パトロールは、月1回で毎月20日ごろに、夜間に青パトを使用して実施しています。続いて、年間の活動スケジュールについてご紹介します。4月には、地元の小学校の入学式での、新入学児童への防犯グッズの贈呈による、防犯広報活動の実施、6月には、福島北地区防犯協会連合会の総会への参加、7月には、福島花火大会での巡回パトロール、5月と10月の地元の神社における祭礼での警戒活動、6

月から11月の夜間には、果樹パトロールの実施、10月には、福島北地区での全国地域安全運動出動式への参加、12月には年町年始・事件事故防止活動への参加としてのパトロール活動の実施をしており、年間を通じた防犯活動を実施しています。

## 課題

◎ 隊員の高齢化

◎ 活動する隊員の確保

指導隊の活動の課題についてでございますが、その1つは、隊員の高齢化、もう1つは、活動する隊員の確保についての2点を感じています。

## 課題の解決に向けた取組方策

◎ 無理の無い防犯活動の推進

◎ 防犯レディース隊、交通安全協会との連携した合同活動による実働員の確保

この2つの課題の解決に向けた取り組みとしてですが、同じ隊員が継続すれば、経験を積んで効果の上がる活動を期待できます。しかしながら、一方で、隊員も高齢化していきますし、高齢化すれば、当たり前ですが、活動への隊員の負担が高くなり、その分の活動ができなくなる、いずれは弱体化してしまいます。ですから、よく活動の計画に配慮して、無理のない防犯活動を図るとともに、各種の団体などとの連携を図って、合同でパトロールが実施できるようにしています。

### 防犯レディース隊との合同活動



### 警察との合同パトロール活動



さらに、活動する隊員の絶対数については、変わりませんので、地元の各種団体である防犯レディース隊、交通安全協会の会員などと連携した合同活動を実施して、人数の確保をしています。実働員の確保については、新規の隊員の確保が必要だと、常日頃から考えております。新規確保の先としまして、北信分隊の隊員は、地元の消防団のOBが主体となって推薦を受けて、隊員を指名していますので、地元の市役所の支所などとも連携を図っています。



隊員の勅命の機会には、消防団のOBがスムーズに定期的に入れ替わって、若手隊員の確保できるように、消防団への防犯指導隊の活動の説明と、理解が図れるように気を付けています。委嘱以外による新隊員には、制服として防犯指導隊のジャンパー、夜光のベスト、キャップ型の帽子の3点警察署の協力をいただき、地区防犯協会から支給を受けています。新しい制服で、金銭面の負担もなく、気持ち良く、楽しく、誇りを持って活動に参加してもらえるように、気を配っています。このようにして、見える活動を通して、少しでも多くの人に、防犯への関心を持ってもらうことで、将来的には、協力体制、担い手の確保、そして後続者の育成につながるようにと考えています。どの地区においても、防犯活動者の確保は、課題となっていると思います。



自らの町は自らが守るとの意識で  
街の安全を見守り続けています。  
ご清聴ありがとうございました。

防犯活動は、無理なく、楽しく、自主的な防犯活動をスローガンに、自らの町は自らで守るとの高い意識を持って、街の安全を見守り続けたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。

#### 講評

**荒井** ご発表ありがとうございました。まず最初に思ったのは、前回、去年の防犯ボランティアフォーラムのときに話をしたりするのですが、今この会場にいる団体さんでも、都市部の団体さんと、農村地域の団体さんがいるわけですね。それぞれ気を付けるべきところが違って、都市部だと連携しやすい面があるんですが、農村部だと、やっぱり物理的な距離が遠いので、なかなかそれが難しいなというのが、正直思ったところです。

あと、農村部で重要な、やっぱり青パトですよね。青パトは、あれは、お金はどうしてるんですか。もし他の団体さんで導入したいって人がいたら、ぜひどうしたらいいかっていうのを、教えていただくといいかなと思うんですけども。

**発表者** 警察署に青パト、2台あります。隊員にあっても、登録して、2台青パト。ですから4台あるような状況なんですけれども、活動に関しては、2台を使うような形でやっています。あと、警察署の青パトのガソリン代とか、そういう関係は、警察署が持ってやられているんですけど、個人的に使ってる青パトに関しては、防犯協会と前年度の繰越金、そういった関係から使った車両に対しては、ガソリン代という規約で、賄っています。

**荒井** なるほど。警察署に2台があって、あと個人の2台に青い、赤色灯じゃなくて、青いものを付けているってことですね。お金も、警察署のほうは、警察署のほうで賄ってもらって、自分たちのほうは、防犯協会とか繰越金、団体のお金で賄っているって感じですよ。そうすると、自分の自腹というか、持ち出しで、ガソリン入れているとかっていうことは、ないってことですね。

**発表者** 自分でですか。

**荒井** ええ。自分のお金でガソリン入れなきゃいけないとかっていうふうには、なってないってことですよ？

**発表者** 距離に関しては、かなり走行はするとは思いますが、ボランティアですので、あくまでも。

**荒井** せっかくボランティアでやっているのに、お金出さなきゃいけないって言って、周りから見ているかわいそうだというのが正直なところで、警察のほうでお金出ないんですか。これ誰に聞いたらいいんですか。ちょっと分からないですけど。あまりないですか。何かお金出る、支援策みたいのありますか？警察から、直接にはない？

**警察関係者** そうですね。よくあるのが、自治体とか役所とかから、ガソリン代であったり、車検代とか、補助金っていうのが出るっていうのは、よくあるんですけど、そちらを大体活用していただくっていうことが、スタンダードな形だと思っております。

**荒井** ありがとうございました。皆さん、ぜひ覚えておいていただけると。意外と、お金、役所のほうで出してくれますので、ぜひ探してみてください。今日、あんまり取り上げないんですけど、自分たちでお金を出すっていうのは、活動が中断しちゃう理由の1つの、結構大きな要因になっているんですね、いろんな団体さんのお話を聞くと。負担感が増していってしまうので、そこはうまく、その地域の警察署だったり、役所の方が登録してあげられるような体制づくりっていうのが、必要かもしれないですね。これは、警察関係者の皆さまと、役所関係の皆さまお伝えしておきたいと思います。以上です。